

令和6年度使用小学校教科用図書
調査研究結果報告書

算 数



京築教育事務所管内教科用図書調査研究協議会

小 学 校 教 科 書 一 覧

教科書種目	算 数
-------	-----

発行者名	番号	略称	教科書名(シリーズ)
東京書籍(株)	2	東 書	新編 新しい算数
大日本図書(株)	4	大日本	新版 たのしい算数
学校図書(株)	11	学 図	みんなと学ぶ 小学校 算数
教育出版(株)	17	教 出	小学算数
(株)新興出版社啓林館	61	啓林館	わくわく 算数
日本文教出版(株)	116	日 文	小学算数

教科書種目	発行者		教科書名(シリーズ)
	番号	略称	
算数	2	東書	新編 新しい算数

項目		項目毎の調査研究結果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	<p>○本文の内容は、日常生活や以後の学習に不可欠な基礎的・基本的なものを重視して取り上げている。記述・展開についても、問題解決学習のステップを重視し、丁寧に構成されている。</p> <p>○児童の発達段階、単元の相互の関連や領域のバランス、学習効率、指導の時期等を十分に考慮して、系統的・発展的・効果的に学習が積み上げられるように単元を配列している。</p>
	2 内容に関する配慮事項	<p>○単元の前半は資質・能力を確実に育むために、吹き出しや補助発問等を設定している。また、単元中盤から後半にかけては、児童が問題解決する機会を創出するために、吹き出しや補助発問を段階的に精選しており、問題解決学習を重視している。</p> <p>○まとめの後に、さらに理解を深める補助発問「それなら」を適宜設定することで、問題解決の際に働かせた数学的な見方・考え方の価値を再確認し、学習を有機的に振り返るようにしている。</p>
	3 分量	<p>○各学年とも10%強(年間20時間程度)の予備時間を設け、余裕を持って時間を調整できるようにしている。</p> <p>○練習や復習の問題は、理解を習熟・定着させるのに必要な範囲に精選し、分量も適切である。</p>
	4 使用上の便宜	<p>○絵や写真は、興味・関心を高め、理解に役立つことをねらいとして、表現や内容、提示の方法などを工夫している。</p> <p>○理解困難な内容に対して、教科書紙面の図をさらにかみ砕いた図を操作するシミュレーションや動画等を設定し、確実な理解を図っている。</p>
	5 印刷・製本等	<p>○分冊・合冊の構成を工夫したり、軽量で丈夫な用紙を採用したりして、児童の身体的な負担を軽減している。</p> <p>○印刷は鮮明で、色彩は目に優しい中間色を基調にしている。</p> <p>○製本は、長期間の使用にも十分耐え得る丈夫なものにしている。</p>
教科ごとの選定の観点	<p>1. 全学年において、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動をベースに構成している。キャラクターの吹き出しや補助発問を必要に応じて設けるなど、分かりやすく丁寧な問題解決の学習展開を通して、基礎的・基本的な概念や性質、技能が確実に身に付き、それらの意味や原理なども理解できるように構成している。</p> <p>2. 統計の絵グラフを作成する際に長さの学習を想起したり、面積の学習で比例の関係にふれたり、測定と倍を同じ数学的な見方・考え方で統合的にとらえて単元を構成したりするなど、領域を超えて既習の内容との関わりを示唆して活用できるような構成とし、それぞれの領域の学びを有機的につなぐことができるように工夫している。</p> <p>3. 数と計算 習熟に時間を要する内容やスパイラルに学習することが有効な内容については、2つの単元に分けて段階的に取り扱うようにしている。特に計算</p>	

単元などは、練習の機会を増やすよう学期末や学年末の配置を避けるなどの配慮をしている。

4. 図形

3学年以上の各巻に、「かたちであそぼう」を設け、さまざまな図形にふれ、親しみながら図形感覚を養い、図形に対する探求的な学習に取り組むきっかけとなるようにしている。

5. 測定

時間、長さ、かさなどについて、量を実際に測定し、単位を用いて的確に表現するように構成されている。また、随所に思考の活性化を促進しつつ、考える余地を残す吹き出しを設定することで、自ら数学的な見方・考え方を働かせることができるようになっている。

6. 変化と関係

伴って変わる2つの数量や割合、比について、生活場面から2つの数量の関係や2つの数量の関係の比べ方について考察する必要性に気づかせている。表や図、グラフなどを用いたり、比や割合の意味を捉えさせ、それらを用いたりして考察するように構成されている。

7. データの活用

学校での指導や児童の発達段階上、無理のない範囲で早めに扱っている。統計的な問題解決の方法の段階的な理解のために、問題解決のストーリーに必然性をもたせたり、5・6学年では統計的な問題解決の過程を図式化したり身のまわりの事象を統計的に解決する活動を設定したりしている。

8. 思考力、判断力、表現力等を育成するため、既習の内容や育ってきた数学的な見方・考え方をもとに解決の見通しをもち、論理的に、また統合的・発展的に考察したり、解決の過程や結果を式や図、表などの数学的表現を用いて伝え合ったりするなど、算数科の特質を生かした思考力、判断力、表現力の育成に資する学習活動を積極的に取り入れている。

9. 数学的活動の支援、学習効果の向上、基礎・基本の習熟定着とつまずきへの対応、統計学習の支援をテーマとし、教科書の内容と密接に関連したQRコンテンツを1450以上用意している。

10. 活動性に富んだり、算数科ならではの興味深い内容で構成したりした数学的活動を豊富に取り入れ、その楽しさや数学のよさに気づくことができるように工夫している。

11. 用語・記号が各学年の内容と関連させられており、巻末に索引として記載することで、学習のふり返りや確かめに使えるようにしている。

12. 数学的活動をより充実したものとするため、自力解決や集団解決のいっそうの充実をめざし、図形や図などを操作して思考を促進するシミュレーションを随所に設定している。

13. 学年段階に対応した筆算による計算の技能が身に付けられるように、構成されている。吹き出し等を使い計算の見積りに気づけるようにしている。

教科書種目	発行者		教科書名(シリーズ)
	番号	略称	
算数	4	大日本	新版 たのしい算数

項目		項目毎の調査研究結果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	<p>○学習指導要領に示された内容はもれなく扱うとともに、学力をのばすために活用問題や補充問題等を豊富に掲載している。</p> <p>○低学年では、ヒントになるようなイラストの量等を増やし、発達段階に合わせたレベルにしている。</p>
	2 内容に関する配慮事項	<p>○適宜、問題を作る活動を取り入れるとともに、自ら場面から問題を発見し、解いていく問題解決型の授業展開に沿った構成とし、児童の問題解決能力を高めることができるようになっている。</p> <p>○単元末の問題では、「見方・考え方をたしかめよう」のコーナーを設け、やや文章量の長い問題や説明させる問題を取り入れることで、表現力を伸ばすことを重視している。</p>
	3 分量	<p>○単元の学習は必要かつ十分なものを取り上げ、年間の予備時数も十分に確保しているとともに、学校や学級の実態に応じて弾力的に扱える内容が充実している。</p>
	4 使用上の便宜	<p>○コンテンツ数は、全学年1400個以上のコンテンツになっており、作図の動画に加え、児童の考え方のアニメーションコンテンツや、授業の解説動画、チャレンジ問題等、ウェブコンテンツが充実している。</p> <p>○全学年でプログラミングに触れる特設ページを設け、プログラミング的思考力をのばすことができるようにしている。</p>
	5 印刷・製本等	<p>○2～6年は学年1冊の合本とすることにより、学年初めに1年間の学習内容を見通して計画を立てることができ、単元配列の入れ替えを行うことも可能としている。</p> <p>○1年²から6年の製本は針などの使用がなく、安全な「アジロ綴じ」としており、奥までよく開くことができるようにしている。</p> <p>○紙は文字等が明瞭に見え、長時間見ても目にやさしい色合いの物を使用している。また、軽量でありながらも強度の高いものを使用している。</p>
教科ごとの選定の観点		<p>1. 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、日常生活や社会の事象等について数量や図形に着目して問題を発見し解決するとともに、解決過程を振り返ることで、結果の意味を考察したり、概念を形成したりする内容になっている。また、数学的な見方・考え方を「算数の大切な考え方」として設定し、以降の学習で活用できるようにしている。</p> <p>2. 児童の興味・関心を喚起する問題、解決の必要性をもたせた課題を設定し、数学的活動を通して考えるたのしさや解決できたときの喜びを感じることができるように配慮している。</p> <p>3. 数と計算 具体物や数直線などを活用して、数の表す大きさや順序・系列・相対的な大きさといった、数についての感覚を豊かにするようになっている。特に計算単元では、学習内容を段階的に細かく設定したスモールステップの構成としており、単元の終末に生活に結びつけたり、活用したりするコーナ</p>

一がある。

4. 図形

様々な具体的操作や構成活動を豊富に取り入れ、図形についての感覚を豊かにできるよう配慮している。円のかき方、分度器の使い方などは、写真で丁寧にし、動画コンテンツを用意したり、立体の学習では、実際に作ったり、観察したりする活動を重視するとともに、展開図については、アニメーション付きの補充問題のコンテンツを用意することで、空間図形に対する感覚が豊かになるようにしている。

5. 測定

量感の育成などを意図し、身のまわりの量についてその概念及び測定の原理と方法を理解するとともに、量を実際に測定する活動を豊富に取り入れている。

6. 変化と関係

関数関係を調べる表については、学年が上がるごとに少しずつ空欄を増やし、児童自ら表を作成する能力が育つように配慮している。また、伴って変わる二つの数量を日常生活に生かせるように工夫されている。

7. データの活用

学年の発達段階を考慮しながら、統計的な問題解決を重視した単元構成としている。統計的な表、グラフを読み取ったり、つくったりする技能面を重視するだけでなく、表やグラフから分析し話し合う活動を重視している。また、分析したことからさらに新しい問題や疑問をひろげていくような展開を盛り込んでいる。さらに、統計的な問題解決の一連の流れを示した「表やグラフを生かそう」のコーナーを設け、自由研究や総合的な学習の時間に活用できるようにしている。

8. 思考力、判断力、表現力等を育成するため、主要な時間の適用問題では、主問題で学習した考え方を説明する問題を設けている。

9. コンテンツ数は、全学年合計1445個のコンテンツになっており、これまでであった作図の動画などに加え、児童の考え方のアニメーションコンテンツや、授業の解説動画、チャレンジ問題など、様々なコンテンツを用意している。

10. 「ふくろう先生になるほど算数教室」では、算数への興味・関心を高めたり、算数が社会で生かされていることを実感したりすることができるようにしている。

11. 用語・記号が各学年の内容と関連させられており、それらを用いて表したり考えたりすることのよさが分かる内容となっている。

12. 数を相対的・多面的にみる問題を設定したり、図形における具体的操作や構成活動を豊富に取り入れたりして、数に対する感覚や図形についての感覚が豊かになるようにしている。

13. 単元内に、演算決定に焦点をあてた時間を設けており、目的に応じて計算の結果の見積もりをして、計算の仕方や結果について適切に判断できる内容になっている。

教科書種目	発 行 者		教科書名(シリーズ)
	番 号	略 称	
算数	1 1	学図	みんなと学ぶ 小学校 算数

項 目		項 目 毎 の 調 査 研 究 結 果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	<p>○児童の発達段階を考慮し、段階を細かく分け、易から難へと配列している。</p> <p>○1時間の学習内容に対応した練習問題を時間の終わりの部分に載せ、単元末に確認問題や学びを生かした問題、また、巻末に発展問題を配列し、十分な習熟が図れるようにしている。</p> <p>○巻末には、複数単元の内容、生活の中の算数などを題材に総合的・発展的に考える教材を取り入れている。</p>
	2 内容に関する配慮事項	<p>○学習材として教科書を位置付け、導入では答えの見えない構成に配慮するとともに、ていねいな記述で、児童が学習後に読んでわかることをねらい、意欲的・主体的に学習できるように配慮している。</p> <p>○理解が困難な内容については単元を二つに分け、さらに指導時期も学期に分けるなどすることによって、基礎・基本の定着を図っている。</p>
	3 分量	<p>○基礎・基本の内容を確実におさえたいうえで課題を精選し、余裕のある時間配分ができるよう配慮している。(標準時間数の10～20%ほど少ない時間数)</p> <p>○1時間ごとの分量は児童の発達段階に合わせた適切な分量になっている。</p>
	4 使用上の便宜	<p>○解決の多様な方法を提示することで、一人ひとりの考えを大切に、達成感や充実感を味わえるようにしている。</p> <p>○学習した内容を振り返る場を多く設けることで、学習習慣が身に付くようにしている。</p> <p>○ふりかえりの場を設定し、個に応じた評価ができる場面を設けるとともに、自己評価もできるようにしている。</p>
	5 印刷・製本等	<p>○文字はUDフォントを基本にし、数字は目立つように少し太いものを使用している。字の大きさは発達段階に配慮している。</p> <p>○製本は耐久性・耐熱性に強く、本が柔軟性をもった作りになっており、紙面が見やすいようにAB版のサイズとなっている。</p> <p>○1～5年生は、上下巻構成として、重さの軽減を図っている。6年生は中学校との接続を考慮し、1冊の構成となっている。</p>
教科ごとの選定の観点	<p>1. 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、問題を発見し、解決する問題解決的な学習が進められるようになっている。また、単元末に、その単元で見つけた見方・考え方をどのように使って単元を通して学習してきたかをふりかえるコーナーを設けている。</p> <p>2. 領域を個々として切り離すのではなく、数学的な見方・考え方を整理し、異なる領域の内容でも同じ見方・考え方ができることに気づけるようになっている。</p> <p>3. 数と計算 数の表し方の仕組みや数量の関係に着目して、既習の内容を元に考えたり、統合的、発展的に考えられたりできるように、絵や図、言葉を使った多様な考え方が示されている。また、単元導入で「?を発見」を設定し、生</p>	

活の中の場面を切り取り、身の回りの事象から課題を考え、解決するように書かれている。

4. 図形

図形では、かく・折る・切る・測るなどの数学的活動を通して図形の調べ方を育成できるようにしている。また、身のまわりのものから抽象化したり、作品作りなどで図形の感覚を育成したりするなど、図形を用いるよさに着目できるようにしている。

5. 測定

量と測定では、具体操作を中心に量概念、量感覚を育成するとともに、測定の概念については、直接比較・間接比較・任意単位・普遍単位の流れをベースにしている。また、公式についても自ら作り出すことができる展開にしている。

6. 変化と関係

伴って変わる2つの数量や割合、比について、単元導入で「?を発見」が設定され、生活場面から2つの数量の関係や2つの数量の比の関係について考察する必要性に気づかせ、表や図、グラフなどを用いたり、比や割合の意味を捉えさせ、それらを用いたりして考察するように構成されている。

7. データの活用

基礎・基本を身につける単元と活用する単元の2つの単元に分けている。さらに、各学年の最後に、資料やデータの活用に係る単元を設定し、統計的な問題解決の力を高めるように構成されている。

8. 思考力、判断力、表現力等を育成するため、どの学年においても、具体物、図、言葉、数、式、表などを用いて考えを示したり、説明したりする内容となっている。

9. QRコードが610個設定されており、各人が必要に応じてタブレット端末等を使い活用することができるようになっている。

10. 課題は、児童の身近な生活場面から多く取り入れ、数理的な処理のよさを感じられるようにするとともに、生活への適用の場面も多く入れている。

11. 用語・記号が各学年の内容と関連させられており、ゴシック体の太字で表記し、重要な用語であることが伝わるようにしている。巻末には、算数の用語・記号を厳選して索引のページを作り、大切な用語を簡単に確認できるようにしている。

12. 生活場面から課題を提示し、それを数理的に思考していく学習を通して、数理的な処理のよさが実感できるようにしている。

13. 学年段階に対応した筆算による計算の技能が身に付けられるように、構成されている。吹き出し等を使い計算の見積りに気づけるようにしている。

教科書種目	発 行 者		教科書名(シリーズ)
	番 号	略 称	
算数	1 7	教出	小学算数

項 目		項 目 毎 の 調 査 研 究 結 果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	<p>○基礎的・基本的な内容に重点を置き、発達段階に即して無理なく学習が進められるように「課題→ステップ→発表・話し合い→振り返り・まとめ→確かめ→練習」という展開で構成されている。</p> <p>○習熟度に応じた指導がしやすいように、知識・技能等の振り返りページや、単元の「まとめ」や「復習」で「考えるヒント」が適宜設けられている。また、各学年で発展的な学習内容として特設教材「算数ワールド」が設けられ、算数のよさを味わったり、数学的な見方・考え方を発揮したりする工夫がなされている。</p>
	2 内容に関する配慮事項	<p>○系統性や習熟期間などを考慮し、既習事項を活用したり統合したりして、学習内容や見方・考え方を関連付けて学べるよう単元配列がなされている。</p> <p>○数学的な活動の過程を「はてな→なるほど→だったら」という問いの連続で構成しており、見方・考え方を「なるほど」でまとめている。また、数学的な見方・考え方と言葉を関連付け、言語活動の中で見方・考え方を意識して用いることができるように工夫している。</p>
	3 分量	<p>○各学年とも予備時間を設定し、基礎・基本の内容と、選択的な内容を分けて、標準時数の中で無理なく習得できるように工夫されている。</p> <p>○練習や復習問題は、理解を定着・習熟させるのに必要な分量になっている。</p>
	4 使用上の便宜	<p>○作用的・体験的な活動の場面では、写真を用いて動機付けをしたり、作図の仕方では連続写真を用いて手順を分かりやすくしたりしている。また、デジタルコンテンツ（QRコード）が591か所で設定されている。</p> <p>○毎時の練習問題から巻末「ステップアップ算数」にリンクし、「きほん問題」と「ジャンプ問題」に分けて、習熟度に応じて練習問題の量を調整できるようにしている。</p>
	5 印刷・製本等	<p>○文字、挿絵、写真などを、見やすく鮮明に印刷されている。</p> <p>○装丁や製本は堅牢かつ開閉しやすい。</p> <p>○身体の発達に配慮し、第2～4学年は分冊にし、全学年用紙サイズはB5版として負担軽減を図っている。</p>
教科ごとの選定の観点	<ol style="list-style-type: none"> 全巻を通じて、数学的活動の過程を「はてな」→「学びを深める問い」→「なるほど」→「だったら」へとつなげ、「問題解決力」だけでなく「問題発見力」や「問題追究力」に焦点を当てた学び方のモデル単元を設定し、問い続ける力の育成を図っている。 各領域の指導の関連を図り、数学的活動を通して指導することができる内容になっている。また、異なる領域の学習を結び付けて解決する問題や見方・考え方を設定している。 数と計算 具体物や数直線などを活用して、数の表す大きさや順序といった、数についての感覚を豊かにするようになっている。「つながるミカタ」が設定され、既習の考え方を基に考えられるようになっているとともに、絵や図、言葉 	

を使った複数の考え方が示され統合的、発展的に考えられるようになって
いる。

4. 図形

図形の学習を通して、筋道立てた考察の仕方や説明の仕方が身につくよ
う、「学びを深める問い」を示し、話し合いを方向付け、焦点化できるよう
にしている。

5. 測定

時間、長さ、かさなどについて、量を実際に測定し、単位を用いて的確
に表現するように構成されている。さらに、「学んだことを使おう」におい
て、算数を使って日常の問題を解決するようにしている。

6. 変化と関係

伴って変わる 2 つの数量や割合、比について、単元導入で「どんな学習
が始まるかな？」が設定され、生活場面から 2 つの数量の関係や 2 つの
数量の関係の比べ方について考察する必要性に気づかせ、表や図、グラフ
などを用いたり、比や割合の意味を捉えさせ、それらを用いたりして考察
するように構成されている。単元末に「学んだことを使おう」が設定され
ている。

7. データの活用

目的に応じて分類整理したり、グラフに表したりすることなどについて、
統計的な問題解決の力を高めるように構成されている。学年末の「算数を
使って考えよう」には、データを活用して問題解決を図る内容が含まれて
いる。6 年生では、データの分析の仕方を学ぶ単元が設定されている。

8. 思考力、判断力、表現力等を育成するため、どの学年においても、具体物、図、言葉、数、式、表などを用いて考えを示したり、説明したりする内容となっている。

9. 教科書からデジタルコンテンツにリンクし、動的な表現によって理解を深めたり、毎時のまとめに「まとめアニメーション」の QR コードが設定されており、動かしながら説明したりする活動に活用することができる。

10. ブロック、時計、おはじき、おりがみなど具体物を用いた実感的活動が示されている。単元末には身の周りの課題を解決する「学んだことを使おう」が設定されている。

11. 用語・記号が各学年の内容と関連させられており、巻末には、「学びのマップ」が設定され、当該学年までに学習した内容が整理されている。

12. 数感覚や図形感覚を養うコラム【もっとやってみよう】が 2 年生以降に設定されている。

13. 学年段階に対応した筆算による計算の技能が身に付けられるように、構成されている。吹き出し等を使い計算の見積もりや見通しが持てるようにしている。

教科書種目	発行者		教科書名(シリーズ)
	番号	略称	
算数	61	啓林館	わくわく算数

項目		項目毎の調査研究結果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	<p>○児童の発達段階に照らして児童にとって身近な題材や既習の内容をスモールステップの段階を踏みながら児童の思考の流れに沿って展開している。</p> <p>○各学期の中間・期末にあたる時期に設定した「復習」では、その学年や前学年の内容だけでなく、習熟が必要な計算問題などは、さらに前学年に遡って取り上げ、大切な知識・技能が確実に定着するよう配慮されている。また、発展的に取り組めるよう「やってみよう」「もっと練習」が設定されている。</p>
	2 内容に関する配慮事項	<p>○教科書で取り上げる時期については、領域全体のバランスや児童の発達段階、習熟に要する時間、季節等を考慮して配列されている。</p> <p>○すべての主問題に「めあて」と「まとめ」を設定し、「めあて」につながる児童の問いや気づきを「めばえ」として提示することで、課題発見の過程を重視している。</p> <p>○既習事項の定着や、確認を図る QR コンテンツを配し、家庭での学習活動においてヒントや答えを確認しながら自学で取り組めるようにしている。</p> <p>○類似内容を複数の単元に分け、習熟の時間が確保できるように配慮している。</p>
	3 分量	<p>○各学年とも予備時間（9～38時間）を設定して、柔軟な指導ができるよう配慮するとともに、実際の授業の流れを想定し、原則1～2ページに収まる分量で構成している。</p> <p>○練習・復習問題は、理解を定着・習熟させるのに必要な分量になっている。</p>
	4 使用上の便宜	<p>○基本操作や問題解決に有効に働く図については、学年を追って系統的に扱っている。演算決定の際などに用いる数直線を系統的に扱い、その書き方を本文や巻末に詳しく整理されている。</p> <p>○QR コンテンツが豊富で、一人ひとりの学びをサポートできるようになっている。</p> <p>○学習指導要領の範囲外などの発展的な内容については「発展」のマークを付し、児童の興味関心に応じて学習が進められるようにしている。</p>
	5 印刷・製本等	<p>○文字、挿絵、写真などを、見やすく鮮明に印刷されている（文字重ね配慮）。</p> <p>○丈夫で軽い用紙を使用し堅牢な製本である。</p> <p>○1年「すたーとぶっく」に発達段階に応じた配慮あり。</p> <p>○身体の発達に配慮し、第1～4学年は分冊にしている。</p>
教科ごとの選定の観点	<p>1. 各時間の学習過程に「めあて」と「まとめ」を設定し、めあてにつながる児童の問いや気づきを「めばえ」として提示することで課題発見の過程も大切にしている。また、ポイントとなる「数学的な見方・考え方」には、児童の吹き出しにマーカーを付して示している。また、「見方・考え方を深めよう」を設定し、数学的活動を通して、数学的な見方・考え方を働かせながら、主体的に解決する力が育成できるようにしている。</p> <p>2. 各領域の指導の関連を図り、数学的活動を通して指導することができる内容になっている。</p> <p>3. 数と計算</p> <p>日常の事象における課題を取り上げることによって、数の概念を形成したり、具体物に置き換えて操作したりする活動を通して、性質について理</p>	

解することができるようになっている。計算の仕方は、既習学習の考えを基に、統合的に考えることができるようにし、計算の仕方を言葉で説明するようにしている。

4. 図形

学習活動の流れや、キャラクター同士の会話から、図形の構成要素に着目できるようにしている。また、構成要素に着目して弁別する活動を取り入れ、性質が発見できるようにしているとともに、図形の性質を筋道立てて説明できるようにしている。

5. 測定

長さ、重さ、時間、広さ・かさ等について、単元の導入では、学校生活に関わる問題を取り上げることで子どもの興味・関心を喚起するとともに、解決の必要感を持たせる設定になっている。また、実際に測定する活動を多く取り入れ、量感を豊かにするようにしている。量とその測定を生活や学習に活用する態度を育成するために、「学びをいかそう」のページが設定されている。

6. 変化と関係

割合や比の意味や表し方の理解を図るために、学習展開においてキャラクターの会話や補助設問を適宜設定し、子どもの思考に沿ってスモールステップの構成になっている。また、関係図や数直線図のかき方を巻末に掲載し、繰り返し活用できるようにしている。

7. データの活用

統計単元では、統計的な問題解決力の育成をめざして、PPDACのプロセスを意識した単元構成となっており、表を比べて、データの特徴を分析する活動、分析の結果から自分なりの結論を出す、結論の妥当性について考察するといった段階を追った学習展開が行われている。また、学習したことを生活に生かして算数の有用性を実感できるよう工夫されている。

8. 思考力、判断力、表現力等を育成するため、自立解決の場面や、伝え合う活動の中で図や表や式を活用するなど、数学的な表現力が身につくようにしている。また、2年生以上の学年に「見方・考え方を深めよう」の単元を設定し、問題解決の過程で、図や表や式にして考えたり伝え合ったりする力がつくようにしている。

9. QR コードからリンクしたデジタルコンテンツが1614個設定されており、児童が個々の興味関心に応じて、主体的に学びを深めることができるようになっている。また、全学年に「わくわくプログラミング」の単元を設け、論理的な思考が身につくようにしている。

10. 学校生活の中から問題づくりをする活動を取り入れて、学ぶ意義を実感する機会を設けるようにしている。単元末問題は、単元で学習したことを活用することで何ができるようになったかを実感できるようにしている。

11. 用語・記号が各学年の内容と関連させられており、巻末には、算数の用語・記号を厳選して索引のページを作り、大切な用語を簡単に確認できるようにしている。

12. 数感覚や図形感覚を養うコーナーを設けている。

13. 演算決定を行うための手段・判断方法を獲得し、変化する課題にも対応できる能力・態度が育まれるように工夫されている。

教科書種目	発 行 者		教科書名(シリーズ)
	番 号	略 称	
算数	1 1 6	日文	小学算数

項 目		項 目 毎 の 調 査 研 究 結 果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	<p>○児童の発達段階を考慮して単元を配列している。反復練習を要する内容は確実な定着をめざし早期に配列されている。</p> <p>○本文の問題や練習問題は、子どもの発達段階を考慮して、基礎的・基本的なものに重点が置かれている。巻末問題「しっかりチェック」は、基本問題と少し進んだ問題の難易度別の構成になっている。</p>
	2 内容に関する配慮事項	<p>○既習事項を確認する機会を豊富に設け、継続的な指導、学年間の円滑な接続が図られている。また、関連のある内容を相互に結びつけ、理解が深められるような構成になっている。</p> <p>○問題解決的な学習過程を具体的に示す場面を多く掲載している。また、子どもの発言を示す部分では、全学年に渡って、言葉、数、図、式を使って表現するように工夫している。ノート指導、数学的な表現の相互関連を整理する内容について系統的に整理されている。</p> <p>○「わかっているかな」では、全国学力・学習状況調査などの結果をもとに、子どもがつまずきやすい内容を取り上げている。また、その単元で働かせたい数学的見方・考え方が確かなものとなるような問題を取り上げている。</p>
	3 分量	<p>○分量は標準指導時数で余裕を持って学習できる構成になっており、各学年とも年間7～18時間程度の予備時間を設け、学習内容の定着が十分に図られるようになっている。</p> <p>○低学年は単元を分散的に構成し、同じ内容が長い期間続かないようにするとともに、高学年は学習の効果効率を考慮し、関連する内容をまとめた配列にしている。</p> <p>○単元は原則導入2ページ1時間、展開は1ページ1時間になっている。</p>
	4 使用上の便宜	<p>○言葉の式、式、数直線図などをうまく組み合わせて、計算の仕方を導き出させ、計算の意味が理解しやすいようにしている。</p> <p>○子ども達自身の問題として調査し、資料を作成して考察するという実践的な力や態度を培うことができるような、身近で興味深い資料を取り上げている。</p> <p>○統計資料は学習効果をたしかめるために新しいものを用いている。</p>
	5 印刷・製本等	<p>○文字、挿絵、写真などを、見やすく鮮明に印刷されている。</p> <p>○表紙は耐水性を考慮し、装丁や製本は堅牢かつ開閉しやすい。</p> <p>○高学年は教科担任制を見据え、しおりのひもを付けている。</p> <p>○身体の発達に配慮し、第1～4学年は分冊にしている。</p>
教科ごとの選定の観点	<p>1. 数学的活動としての問題解決的な学習の進め方を、単元中の「自分でみんなで」で示すことに加え、毎時間の「めあて」と「まとめ」を具体的に示し、その時間の学習の流れを明確にするようにしている。また、各時間に働かせる数学的な見方・考え方は「見方・考え方」として配置し、見通しを立てたり、筋道を立てて考えたりするための着眼点になるようにしている。</p> <p>2. 各領域の指導の関連を図り、数学的活動を通して指導することができる内容になっている。</p> <p>3. 数と計算 基礎的・基本的な内容を確実に理解させるために、各単元では、つながりを大切に単元構成となっている。また計算の仕方については、既習</p>	

学習を基に、統合的、発展的に考えることができるように、見方・考え方の欄で具体的にポイントが紹介されている。さらに、計算の仕方や意味を読み取ることができるようにするために、図と言葉を組み合わせる考え方を提示したり、式と言葉を関連付けて説明したりする活動を位置付けている。

4. 図形

作業的活動や操作的活動を通して、図形の構成要素に目が行くように活動が設定されているとともに、数学的な見方・考え方を含めた、学習材に即した児童の具体的な思考過程をていねいに示している。学習した内容を身近な物や日常生活とつなげて調べる学習が位置付けられている。

5. 測定

技能的な手順を巻末にまとめ、指導時期以外でも繰り返し参照できるようにして技能の習熟を図るようにしている。身の回りの物の量を予想したり、実際に測ったりする活動を通して、学習したことを実生活に結び付けたり、量感が身につくように学習が設定されている。日常生活と算数をつなげるために、各単元の導入に、子どもたちの興味・関心に働きかける題材が設定されている。

6. 変化と関係

「倍」の単元を新設している。2年生から「倍」について取り上げ、3、4年に「倍の見方」の単元を設けて、5年の「割合」の学習に円滑につながるように工夫している。単元末に設定された「使ってみよう」のコーナーでは、学習したことを生活の場面にいかし、算数の楽しさや意義を実感できるように、数学的活動を具体的にイメージできるように示している。例えば、5年「単位量あたりの大きさ」では、身の回りのものの速さについて調べてレポートにまとめる活動が設定されている。

7. データの活用

低学年では、生活科など他教科で扱う内容と関連付けて、表やグラフを扱うようにしており、高学年では、統計的な問題解決の方法について子どもの関心が高まるよう、PPDACサイクルを図解で示し、実践に結びつけられるようにしている。「使ってみよう」では、問題を自分で設定し、身の回りのデータを集め、表やグラフを使って表し、考察する活動を設定している。

8. 思考力、判断力、表現力等を育成するため、どの学年においても、具体物、図、言葉、数、式、表などを用いて考えを示したり、説明したりする内容となっている。

9. QR コードからリンクしたデジタルコンテンツは838個設定されており、動画や練習問題が多く、図形や数量の感覚を豊かにしたり理解を深めたりする効果が期待できる。また、全学年にプログラミング的思考について学ぶ内容が設定されている。

10. 課題は、児童の身近な生活場面から多く取り入れ、数理的な処理のよさを感じられるようにするとともに、生活への適用の場面も多く入れている。また、単元末問題では、単元で学習したことを活用することで何ができるようになったかを実感できるようにしている。

11. 用語・記号が各学年の内容と関連させられており、ゴシック体の太字で表記し、重要な用語であることが伝わるようにしている。

12. 数感覚や図形感覚を養う問題を随所に設けている。

13. 計算技能の確実な習得のために、習熟を図るための練習問題が充実している。また、計算結果の確かめをするよさを意識付け、学習に活用するよう促している。